

# あゝ野麦峠 ある製糸工女哀史

(スタッフ 女性10人・男性4人)

脚本 Y・T (学生)

## 登場人物

- ☆ 山本茂実 (「あゝ野麦峠」の作者)
- ☆ 島田 (助手。今回初めて取材に参加。)
- ☆ エイ (もと工女。いまは老女。)
- ☆ みね・ミネ (新米工女。病弱。)
- ☆ 若旦那 (シマオカ製糸工場の若旦那。やさしい性格。)
- ☆ 女将 (若旦那の奥さん。きつい性格。)
- ☆ 勝太郎・カツタロウ (検番。シマオカ製糸の右腕的存在。きびしい。)
- ☆ 庄吉・ショウキチ (新米検番。やさしい性格。)
- ☆ お品・オシナ (熟練工女。リーダー格。)
- ☆ 小夜・サヨ (二年目工女。美人。)
- ☆ 少女時代のエイ (新米工女)
- ☆ 育・イク (新米工女。おっとりしている。)
- ☆ 正江・マサエ (三年目工女。新米工女の世話役。)
- ☆ きさ・キサ (二年目工女。庄吉に惚れる。)

^巻末に 解説のような註がついています。お見逃しなきようv

シーン1 (現代①)

(季節は夏。場所は信州の山中。)

木々のグリーンは濃度を増し、山にかかる積乱雲の白、空の蒼がコントラストをつくる。一步踏みしめるごとに、草の匂いが立ちのぼる。こだまするセミの音が、一瞬とぎれる。

山中に登山者なのか放浪者なのかわからない格好の山本茂実が歩いてくる。少しして後ろからへとへとになった助手の島田がくる。)

島田 先生、待ってくださいよう。

山本 (山本、振り向いて) ン？

島田 ン？じゃないですよ。さつきから歩きっぱなしじゃないですか！

山本 いやあ、心配しなくても大丈夫。僕はまだまだ平気ですよ。

島田 あ、そうですか。それはよかった。って、そうじゃなくて！

山本 ン？

島田 ……何でそんなにノンキにしていられるんですか？

まだ一軒も取材できてないんですよ！さつきなんて「いらないよ、間に合ってます」とかいわれて……。こっちは押し売りに来たわけじゃないのに！

山本 まあまあ。取材は根気が大切なんですよ。こちら辺の人は、よそ者に対して警戒心がつよいんです。

ン？ (表札に気付き、確認する)

「多田えい」……ここですね。

島田 あ、そうですね。むかし、野麦峠を渡った女工さんの……。

山本 すみませーん！先日ご連絡しました山本と申しますが。

(ガラガラと戸を開けて老女が現れる。ニコニコとお辞儀をして2人を招き入れる。)

エイ よくおいでなすった。(と、お茶をだす)

(2人、恐縮してお茶を飲む)

エイ ……野麦峠の話でしたな。

山本 ええ。僕は野麦峠を越えた方の、生の声が聞きたくてやってきたんです。

エイ それはご苦労様なことです。そうさね、野麦時代はおらの娘時代じやから、もうずいぶん昔の話になりますなかな……。

シーン2

ナレーター 百姓殺すにや刃物はいらぬ。などと、農家のもんは言います。

お天とさんのご機嫌次第で、私らお百姓の運命が決まるからです。ですから、不安定で貧しい農家の娘たちは、口減らしに工女として働きに出たのでございます。

娘達は、赤い腰巻にわらじを履いて、長く険しい峠道を歩きました。一家の未来と、明治という時代を支えるために……。

(シマオカ製糸工場にて。お品・小夜・正江・きさら女工が糸を紡いでいる。

勝太郎が女工たちの糸を検査している。)

勝太郎 正江、なんだこの糸は！細さがバラバラじゃないか！

正江 すみません。

勝太郎 おまえほど不器用な奴は見つた事がない。

それに比べて小夜、お前の腕は天下一品だな。

そ、そんなことは……。

小夜 ほんとだ、小夜さんの糸は均一なんだね。すごいなあ。

庄吉 きさ (ひそひそ声で正江にむかって)

なにさ、褒めてんのは糸じゃなくて器量だろ。

……これだから男つて奴は。正江さん、気にすることはないよ。

お品 きさ、無駄口たたくひまがあるなら、その手を動かさな。

きさ す、すみません……。

(旦那と女将が新米工女を連れて帰ってくる。)

一同 お帰りなさいませ！

旦那 おお、ただいま。

女将 さあみんな、手を休めずに聞いておくれ。今日からウチで働くことになった新入りたちだ。お入り。

(みね、エイ、育が入ってくる)

旦那 みね、エイ、育だ。3人とも飛騨から来た。糸紡ぎは初めてだそうだ。どれも女工の手がほしくてなんねえご時世だ。みんな、よ

ろしくたのむよ。

一同　はい！

女将　正江。

正江　はい・・・。

女将　新入りの世話役、任せたよ。

正江　は、はい。かしこまりました。

よろしくね。

（正江、新入り3人に微笑む。三人のこわばった顔がゆるむ）

### シーン3

（工場で糸を紡ぐ工女たち）

正江　（みねを見ながら）ほお、3日でここまでできるとはてえしたもんだな。

みね　おら、百円工女になりてえんだ。おらの稼ぎでおつかあにうまいもん食ってほしいんだ。

小夜　そりゃ、おつかあも幸せもんだ。みねちゃんほどの腕してりゃ、心配ねえな。

育　あつ、切れてしもうた。（糸が切れる）

お品　何やってんだい、新入り。もたもたしてつと検番に見つかっちゃまうよ。

育　すみません。

みね　育ちゃん、ここはこうやるんだよ。（と、育にアドバイスする）

育　うわあ、みねちゃんは器用だなす。

エイ　（正江に向かって）・・・あの、切れたのを見つかると、どうなるんですか？

正江　そりゃあ・・・（と言いかけて）

（勝太郎、きさの糸にチェックをいれて）

勝太郎　きさ、まあた節が入ってるぞ。

きさ　小夜は・・・合格。

きさ　けんど勝太郎さん、おらと小夜のはどこが違うのかい。おんなじじゃないかね。

勝太郎　そりゃ、器量がちがうさね。

(きさ、きつと小夜をにらむ。うつむく小夜。庄吉が歩み寄って)

庄吉 きささん、大丈夫。これは合格だよ。

きさ 庄吉さん……。

(2人、微笑んで見詰め合う)

#### シーン4 (現代②)

山本 おつといけない、テープレコーダーを回していなかった。

島田君、たのむよ。

(島田、はい、とレコーダーの録音ボタンを押す。)

エイ テープレコーダー？

島田 はい。先生は、エイさんのように「ナマの歴史」をかたつてくださる方の声を録音しているんですよ。

山本 大切なお話ですから、聞き逃さないように、いつも持ち歩いているんです。

エイ そうですか。

島田 あの、百円工女ってなんですか？

エイ 腕のいいもんは糸を紡いで百円も稼いだんですよ。

山本 百円というたら当時は大金でした。でも、新米工女は、工場に勤めて一年目は給料がもらえなかったと聞きました。

エイ ええ。今でいう契約金你先払いされたもんでね。

島田 じゃあ、はじめはタダ働きじゃないですか！

山本 まるで山本先生の助手並みの扱いだ！許せない！

島田 ごほんっ(と咳払いして)……島田君、続きを聞かせていただこう。

島田 は、はい。

(エイ、にっこり笑う。)

#### シーン5

ナレーター

工場づとめは監獄づとめ 金のくさりがないばかり

かごの鳥より監獄よりも 製糸(キカイ)づとめはなおつらい

これは当時はやった糸ひき唄(うた)の一節でございます。

それでも家の暮らしより、工場づとめの方が楽だと、仲間うちで笑っております。

勝太郎

おい、エイ。みねはどうした。

エイ

あの、ひどく頭が痛いそうので休んでおりますが。

勝太郎

なに？あいつ何様のつもりだ？

女将

どうしたんだい？

勝太郎

へい。みねの具合が悪いつかで・・・。

女将

ふん、勝太郎、みねを呼んできな。

(へい。と勝太郎、みねを連れてくる)

女将

みね、熱はあるのかい？

みね

いいえ。

女将

そうかい。(一息ついて)みね、あんた自分をお姫様かなんかと勘違いしているんじゃないかい？おまえはただの水のみ百姓なんだよ。それをウチで雇ってやってるんだ。文句があるなら暇を出してやつてもいいんだよ？

みね

すみませんでした。

(よろけながら持ち場へ戻るみね。)

旦那

(女将にむかって)ちよつと厳しすぎやしないかね。

なんでも、あの子の親は病気で、稼ぎ手はみねだけらしいじゃないか。

女将

あんた・・・まさかみねに気があるんじゃないだろうね。

旦那

まさか。

女将

どうだか。前科何犯の誰かさんの言う事なんて聞く耳もちません。おいおい、その話は堪忍してくれよ。お前があの子に暇を出して解決したじゃないか。

旦那

(ふん、といつつ、女将、はける。旦那、あとを追う)

エイ みねちゃん、顔、真っ青だよ。

みね (糸を紡ぎながら) 大丈夫。

小夜 みねちゃん、おらがやつから半分貸してくれろ。

みね (なおも糸を紡いだままで) 大丈夫だべ。

お品 (はあ、とため息をついて) でもさ、毎日成績表が廊下に張り出されちゃ、休めつて言う方が酷だな。

正江 ……んだな。

(みね、高熱が出たときのようになまいがする。ふらり、とよろめく)

エイ みねちゃん？

みね 大丈夫だ。ここで飛驒に帰るわけにやいかねえんだ。

・・おらのうち、お父はいねくて、おつかあは病気なんだ。

帰るわけにやいかね。

育 そうか。おらも帰れねえのは同じだ。一緒に、がんばって優等工女になるべ。

お品 優等工女か……。

育 ?

お品 みね、いい話を聞かせてやるべ。

うちの姉さんは岡谷(おかや)の優等工女だったがね、病気になつたらぼろくずみたいに捨てられたんだ。頑張つたつて体を壊したら全部おじやんさ。

みね お品さん……、心配してくれてありがとうございます。

お品 (ちよっと戸惑つて) バカをお言い。べつに心配なんてしてないよ。

(みんなで微笑する)

## シーン6

きさ 庄吉さん！

庄吉 きさ、準備はいいか。

きさ はい。

きさ おら、庄吉さんの行くところなら、どこへでもついていくだ。

庄吉 (にやり、とほくそ笑んで) きさ。

きさ 庄吉さん。

庄吉 いいか、きさ。俺は旦那さんには感謝してんだ。色々よくしても

らったからな。

(きさ、こくん、とうなずく)

庄吉 だがな、安い給金とおおばか勝太郎には愛想が尽きた。

きさ カネル製糸工場に乗り換えれば、検番頭に昇格して給金も上がる。おらもカネルで庄吉さんと働きてえだ。

庄吉 ああ、もちろんだよ、きさ。

### シーン7

勝太郎 あれ、女将さん、庄吉のやつ見ませんでしたかね？

女将 庄吉かい？そーいや、今日はまだ見てないね。

(旦那、あわててやってくる)

旦那 た、大変だ！

女将 どうしたんだい、血相変えて。

旦那 庄吉がカネル製糸工場のスパイだったんだ！

女将 なんだって？！

旦那 きさが引き抜かれた。ちっ、この忙しいときに！

勝太郎 庄吉が……。どうも変だと思ってたんだ。そうか、あいつ、はなっからきさを引き抜くつもりだったんだな。

旦那 ああ、どうするべ。どうするべ。(と、うろたえる)

女将 大丈夫ですよ。きさ位の腕のもんが一度に3人引き抜かれたら、工女五人分の損をしまうけど、たった一人だ。

旦那 ああ、そうだな。しかも小夜やお品ほどの腕は持ちちゃいねえ。

女将 勝太郎、これからはもつと工女たちを厳しくしなけりやなんねぞ。

勝太郎 へい。

### シーン8

お品 みんな、成績が貼り出されたよ！

(工女たち、成績表の前に集まってくる)

お品 小夜、今回はあんたが一番だ。



(工女たち、すごい、と各々小夜をほめる)

小夜　　そ、そうですか。

正江　　もう、小夜ちゃん、謙虚なんだから。

お品　　小夜、おら、正江・・・みね。

みねが四番だべ！

育　　すごいよ、みねちゃん。

エイ　　やったね。百円工女も夢でねえなつ。

みね　　ありがとう。

小夜　　一番早く工場(こうば)に来て、一番遅くまで残ってるんだもん。

きつと旦那さんも女将さんも、みねちゃんの頑張りを見てるよ。

みね　　(笑いつつ)だって、飛騨でおつかあが待ってるんだもの。

来年の給金で、おつかあに薬と着物を買ってやるって決めたんだ。

育　　もう来年のこと言ってる。

エイ　　鬼が笑うナ。

エイ　　(みんなで笑う)

正江　　(お品にむかって)みねのおつかあも幸せもんだな。

お品　　んだな。

けんど、いいか、みね。

体だけは大切にしなくちゃなんねぞ。

みね　　へえ。

(みんなが仕事場へもどる中、みねの歩がとまる。)

みね、へなり、とその場にしゃがみこむ。エイが戻ってくる。)

エイ　　(みねを発見して)みねちゃん?!

しっかりして、みねちゃん!

だれか!誰か来て!

### シーン9

ナレーター　　その後も、みねちゃんの具合は一向によくなりませんでした。

けんど健康保険も労働基準法も無かった当時、私ら貧乏女工には、休む事すら許されなかったのでございます。

勝太郎　　みね、みねはどこだ!

育 さつきも言うたように、熱が下がらんで部屋で寝とります。

勝太郎 何?!

エイ 勝太郎さん、おねげえです。みねさんを休ませてあげてください。休みだと?ふざけるな!

勝太郎 キサマたちの身には高い内金が渡っているんだぞ、この穀つぶしたちめ!遊びに来ているんじゃないんだ!

正江 おらからもおねげえします。

あの子、ここ一週間、なんにも食べてねえ。あのままだと死んじまう。

勝太郎 ふん。

(みね、ふらふらと仕事場に現れる)

育 みねちゃん!

みね おつかあ、おつかあ。

ああ、おつかあに会いてなあ。

(みね、おぼつかない手で糸を紡ぎ始める。唄を歌いだす)

野麦峠はダテには越さぬ

一つア一身のため親のため

男軍人女は工女

糸をひくのも国のため

(みね、ゆっくりとたちあがって)

みね おつかあに、楽、させてやりてなあ……。

(みね、その場に倒れる。)

シーン10.

山本 ……つらい思い出を語らせてしまつて、何と云っていいのか……。

エイ そんなこたねえ。わしはうれしい。

山本 え?

エイ 泣いて過した娘時代でも、聞いてくれる人のあるこたあ、うれし

いもんじや。こんな山の中まで来てくださって……。コウボウ様とはきつとあんたさんのような人だったと思います。

島田 (チーンと鼻をかんで) うっ、うっ。

山本 どうしたの？

島田 うっ、だつて、だつて、かわいそすぎますよー！

エイ そうかね？わしらは親孝行できで、自分のことを可哀想だなんて

思つたこと、なかったがのう。

島田 えっ？そ、そんなのかわいそうー。(と、また泣き出す)

山本 ……それでは、私たちはこのへんでおいとまさせていただきま

す。ほんとうにありがとうございました。

(すたすたと帰る山本。あわてて追いかける島田。)

(エイ、唄をうたいます。「ツアー」のところからみんなで歌う。)

野麦峠はダテには越さぬ 一ツアー身のため親のため

男軍人女は工女 糸をひくのも国のため

〈完〉

注のような、あとがき(?)

①ワードで書いたので、赤や緑の波線があっちこっちにひいてあります。

②島田氏は、本当は島岡氏にする予定でした。が、生きている人を脚色して演じるのは難しいと思い、やめました。

また、島岡氏にするなら、いっそのこと島岡先生に出演していただくかとも思いました、が、やめました。他の出演者が、かすんでしまう恐れがあったので……。

③糸引き唄の節は、自分達で勝手に作ってつけてしまいました。童謡っぽい仕上がりです。

④登場人物は実在しましたが、名前のみ借用しました。ただし、勝太郎、お品、エイ、ミネのキャラクターは、史実に近づけて作ってあります。

⑤方言や言葉の言い回しは、各役者さんにお任せしました。劇の中では、役者の数だけミネがあり、勝太郎があり、エイがあり、若旦那、お品、小夜、育、きさ、庄吉、正江、女将、島田、山本茂実があります。

⑥今回は、山本茂実氏を女性が演じ、老女のエイさんを男性が演じました。性別を変えての配役は、思慮を要するところですが、このパターンは成功だったと思います。

⑦きさと庄吉のシーンは、練習中も盛り上がりました。

駆け落ち……。その甘く、張り詰めた言葉に、私は酔ってしまった……。きさと庄吉を主人公にした恋愛ものを書いたら、きっと面白いんだろうな、にやり。

……「愛は、惚れられた方が勝者。」

この格言(?)をもとに、何か書いたら……。

⑧つたない脚本ですが、練習中は、大学受験生にとってのチャート式、もしくは赤本なみに大切なものでした。何度も繰り返して暗記して、イメージして。もちろん、いまでも宝物です。

私達のやる気が、ただの紙切れに、付加価値をつけたのでしょ。